



月刊



まち・コミ



1月号



1999年1月1日発行
 発行
 阪神淡路大震災まち支援グループ
 まち・コミュニケーション

〒653-0014 神戸市長田区御蔵通5-5兵庫商会3F
 TEL 078-578-1100/FAX 078-576-7961
 e-mail m-comi@cx.airnet.ne.jp
 URL http://www3.airnet.ne.jp/m-comi/

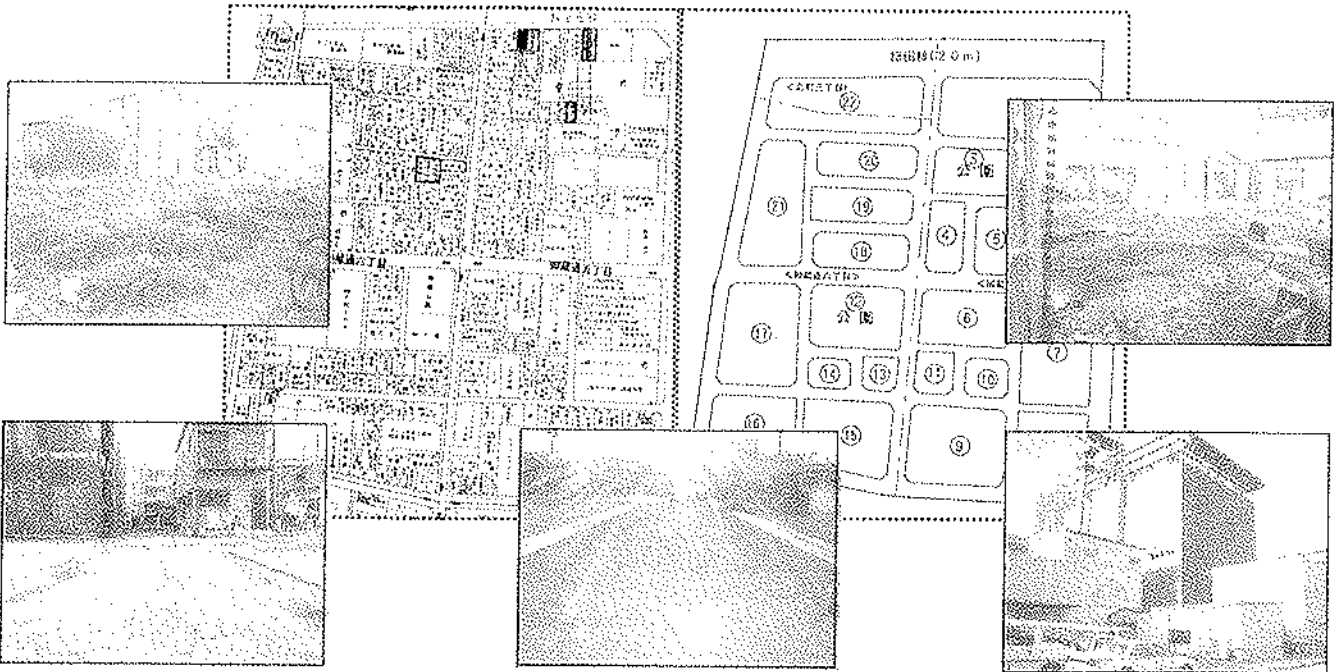
「震災とは何だったのか」プロローグ

～震災・まち・ひと 特別編～

長田区御蔵通5・6丁目

震災から5年目の「今」

震災前：374世帯 735人
 焼損棟数：225棟
 り災世帯 [火災]：253世帯 り災人員 [火災]：542人
 死者：27人
 1999年1月現在：97世帯 227人 (推定)



もくじ

P 1 「震災とは何だったのか」
 プロローグ
 ～ 震災・まち・ひと 特別編
 御蔵通5・6丁目の今
 P 5

P 6 焼け跡のくすぶり ～十五回～
 神戸世相 ～きのう・きょう～
 P 7 まち・コミ 活動報告 / NEW FACE
 P 8 まち・コミ今月も行く / 募金・協力のお礼
 カンパ・募金のお願い / 編集後記

仮換地指定 48%

新規建築 一軒

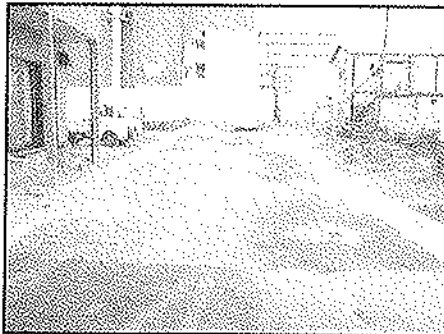
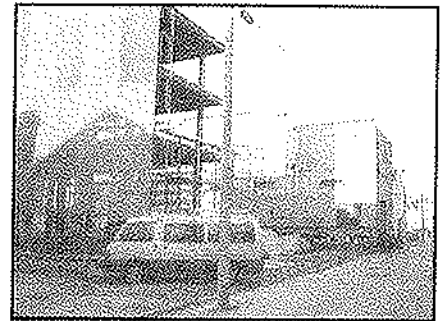
「杭打ち」からはや一年…。

御蔵通 5・6 丁目の「仮換地」作業（土地をどこに移し換えるのかを決める作業）は、全体の約半分が終わった。「仮換地」が決まった方はそこに「本建築の家」を建てることが可能になるのだが、98 年内に建てることができたのは一軒の方のみ。この年末に 2～3 軒の方々の工事がようやく動き出した。

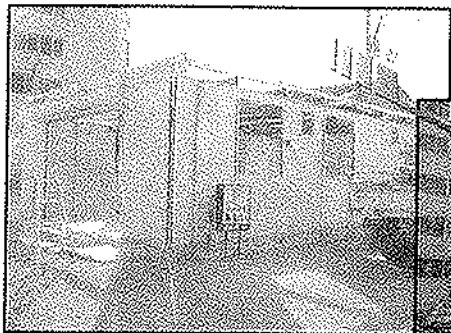
住宅再建には当然、「資金」＝「借金」の問題がついてまわる。50～60 代の方々が一千万～二千万の借金をすることは容易なことではないし相当な決断が必要だ。かといって親子二世で家を立てるには土地が狭小すぎる。工場・店舗との併用であれば、商売の行く末とも絡む。正念場はこれからだ。



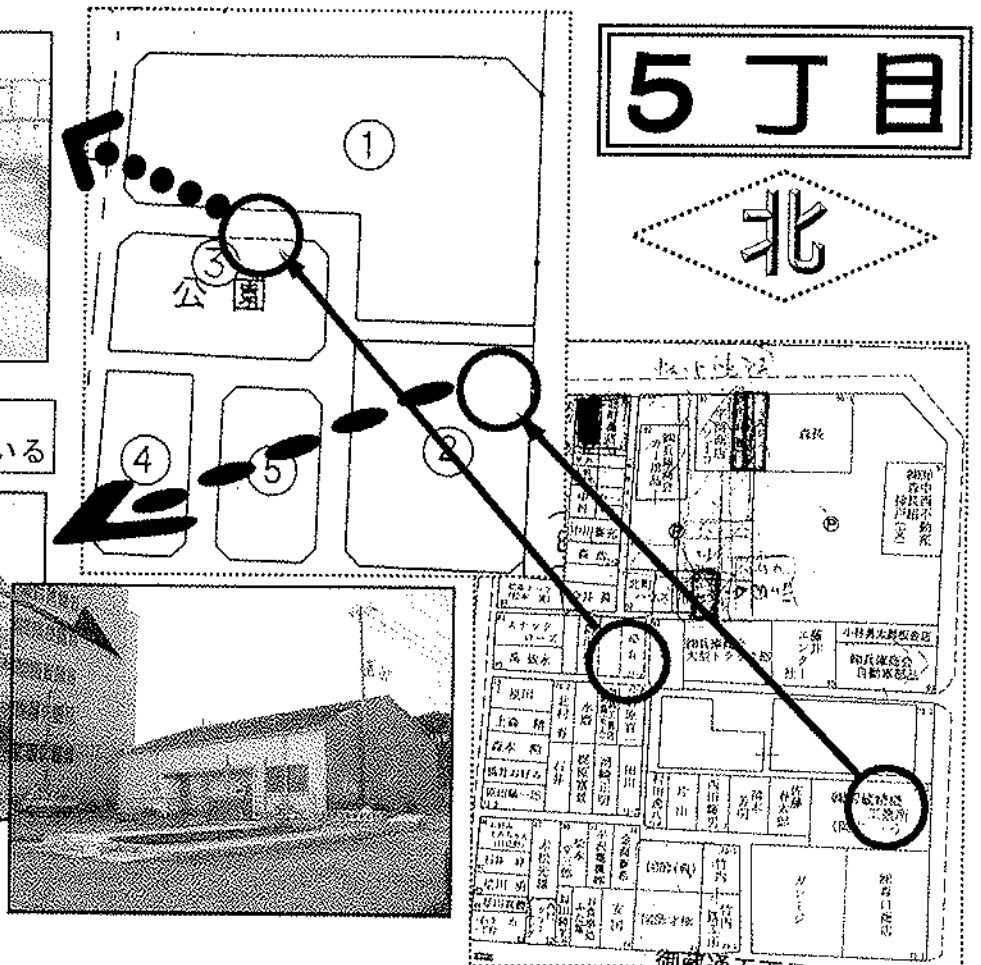
↑「仮換地後」本建築の第 1 号
この 12 月に入居された
鉄工所の本格建築が始まっ
たところもある↓



かつてのボランティアスペースには
6m道路が途中まで敷かれている



震災後の「仮生活」を支えた
プレハブの撤去が続く。



2つの公園

二つの受け皿住宅

区画道路以外に神戸市が御蔵 5・6 に作る「建造物」が二種類ある。「公園」と「受け皿住宅」がそれだ。

1000㎡と1500㎡の2つの公園の内容・性格は「まちづくり協議会」で検討し、行政に提案する。住民のための公園に何が必要か、もう1年ほどかけて議論をする予定だが、問題のひとつに、公園予定地にある「お地藏さん」を、公園内には置くことが出来ないという事がある。

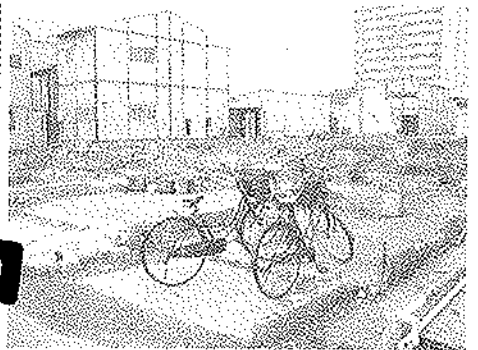
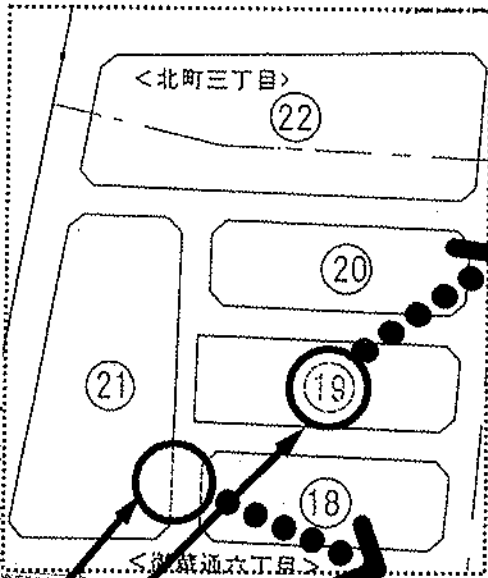
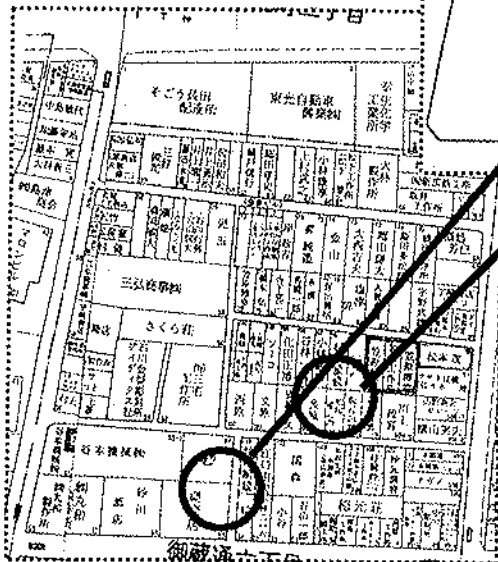
二棟できる「受け皿住宅」は99年冬には入居可能な状態になる予定だが、入居資格を持つ人は「店子」のごく一部。その中でも、仮設住宅では待ちきれずに他の公営住宅に移り住む方も出始めており、その方たちは資格を失う。「受け皿」を巡る「葛藤」はこれから始まる。

着々と進む受け皿住宅建設！
←「模型」を使って公園をイメージ

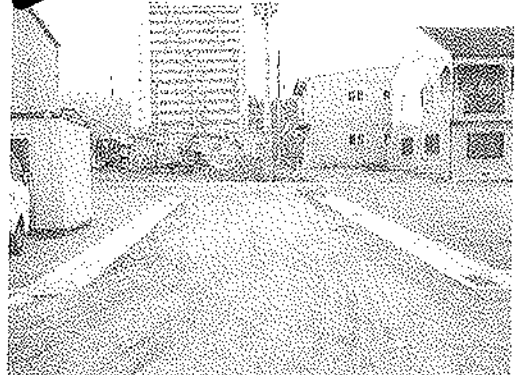


6丁目

北



6丁目北は御蔵 5・6 で最も狭小宅地が多く、そして地区の9割が焼失した。



「震災前から」と「震災後に」と

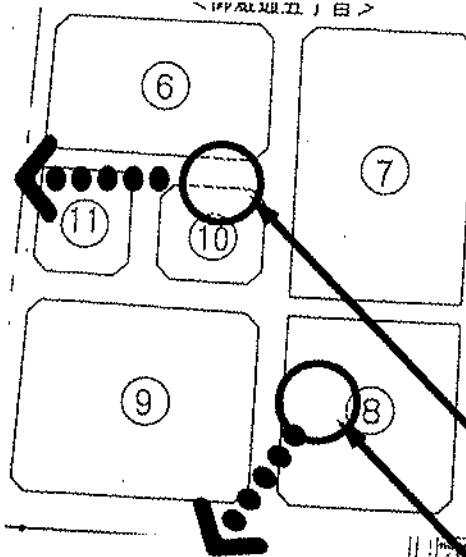
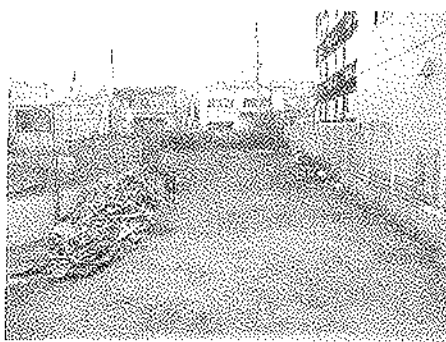
「さらなる流出」か

御蔵 5・6 には全焼の被害を受けながらも自力で仮設住居を建て住んでいる方もいれば、なんとか火災の難を逃れ、以前と同じ住居に住まれている方もいる。今、その「燃え残った」方々さえもが、えもすれば御蔵を去らざるをえないという「危機」が存在する。

仮換地を受けた方は、自分の土地の上に建物(上モノ)がある場合、相当額の補償がでる。しかし、「燃え残った」住居の多くは築年数が古い建物であり、やむを得ず「建て替え」をせねばならない場合、補償が相当額でいいのか不安が残る。また、地主・家主・店子の三者がいる場合、調整がうまくいかなければ店子の立場の方は御蔵を出ざるをえない可能性がある。全焼の被害を受けた方とは異質であり、しかし、同様な「再建」問題である。



↑たばこ屋の老夫婦も移転した
↓震災をくぐり抜けたのだが...

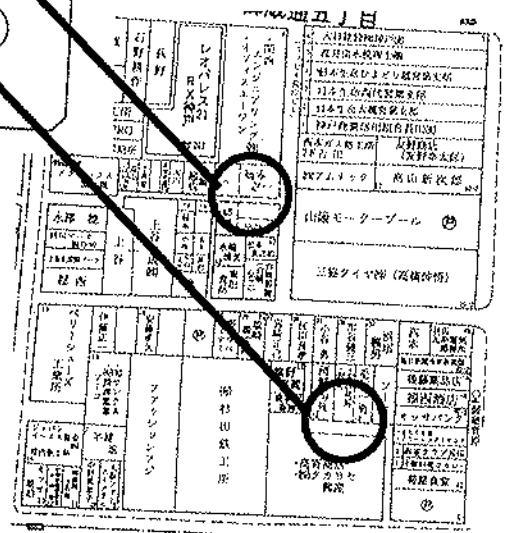


5丁目

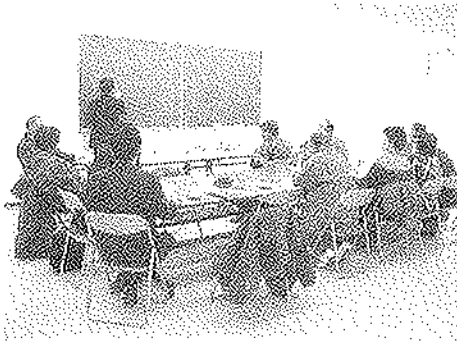


↑5丁目南に
あった仮集
会場も撤去
れ、道路予
地となる

→ 蔵たも
地れも
もわ地無
後行路ぐ
災がのす
震盆こう
る。



ポスト「協議会」の行方



↑ 協議会役員会は続いている
↓ 恒例になった年末の餅つき



震災の年に発足した「御蔵通 5・6 丁目町づくり協議会」。96 年夏には区画整理案を 97 年秋には地区計画案を神戸市に提出し、ハード面での大きな役割は果たされたと言える。かたや数回に渡り市に提出された地域住民が元に戻れるための「要望」は、残念ながらその多くは実現されてはいない。

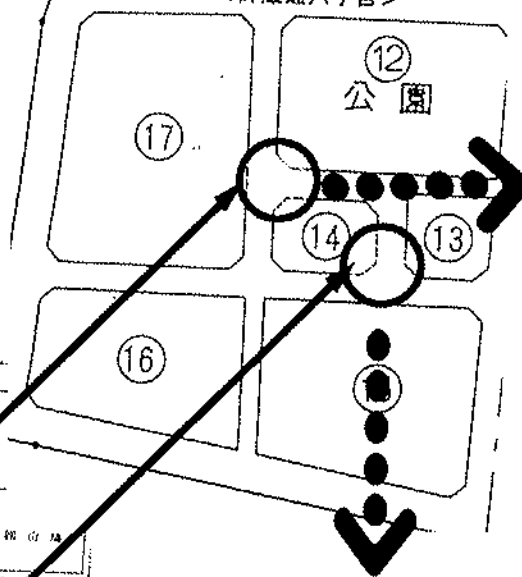
あれから丸 4 年。御蔵に戻りたい人、戻れた人、そして戻れない人の「境界線」はより一層明確になりつつある。「一人でも多くの住民が戻れるように」という思いと、現実は今まちに住む震災前の約 1/3 の方々の「これから」。99 年の御蔵通 5・6 丁目は、震災の傷を引きずりつつも、「次」に向けての模索を続ける。

これからの御蔵

6 丁目

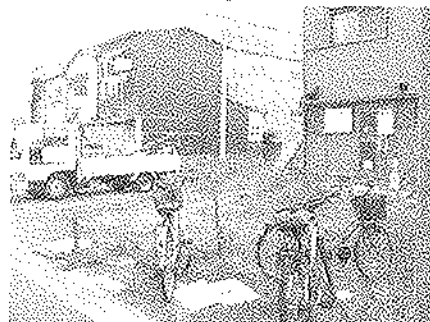
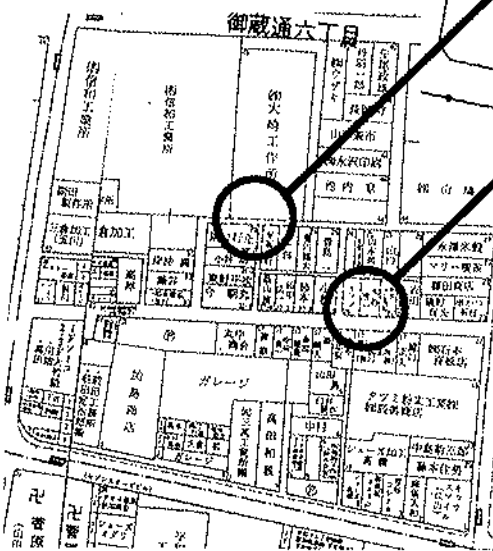
南

<御蔵通六丁目>



↑ 6 丁目南は火災による被害は割合少なかったため、一部で昔ながらの御蔵の雰囲気を出せる。

← 中にはいると虫食いの様な状態で更地が点在する。全壊による被害を受け解体撤去した家があった。



焼け跡のくすぶり(十五回)

「何かを支店会」解散と遠藤さんのこと

「神戸復興支援！何かを支店会」が、被災地も落ち着き、支店会が対症療法的に支援する段階を終え、本業を通じて経済復興に貢献する時期と判断し、この十二月半ばに解散した。

神戸経済は市の総生産の65%は飲食業やホテルなど非製造業が占め、人が集まることがこの業種の復興に欠かせない。「何かを支店会」は震災を体験した東京や大阪に本社を置く企業の神戸支店長が集まり、「縁あって神戸に暮らし、震災に遭遇した身として個人レベルでも何かをしなくては」と、震災の年の五月に発足。神戸復興に向けて知恵を出し合い「神戸地区以外に仕事仲間や友人が多い」よそ者」としてその人脈を活用して「人々を呼び込もう」というのが幹事役で当時の日銀神戸支店長 遠藤勝裕さんの発想だった。

そしてこの活動がある意味、神戸の復興に大きく寄与している。メンバー会社の支店長会議や集客事業をあえて神戸で開催し、復興を支援してきた。今や神戸の冬の風物詩となったルミナリエも第一回の開催の主体はこの支店会であったことを知っている市民は殆どいない。どれ程初回の苦労があったことか忘れてはならない。

震災後色んな人たちが知り合ったが、この遠藤さん程素晴らしい人はいなかったと言った過言ではない。それは震災当日の昼前には、金融特別措置を発動。預金証書、通帳がなくても、印鑑がなくても確認の上払い戻しに応じたこと等。金融不安を未然に防いだ功績は、不作為、不決断がまかり通った中、危機管理の鑑であり、賞讃に値する。御管の中も歩いて頂き、「聞む会」で何度かお話を伺っているが、神戸を語る情熱は燃えさかるとはあったも冷めることはない。未だに「被災地からきた私の熱い頭を、関東人の冷たい中に突っ込んで、少しでも温度を上げたい。」と語り、月一回以上神戸を語る機会を東京周辺で持っているという。

「ノー」ではなくイエスからの出発、行動することの大切さ、自分に何が出来るかを教えられている。会う度にほとぼしる熱意を伝導され、懐の深さと人としての暖かさを感じる。今八十余才の御母堂を自分で病院に連れていかれる熱血あふれる市井の人である。

(株)兵庫商会 田中 保三

～神戸世相～きのう・きょう

- 児童6人が震災の犠牲の難区・成徳小、運動場と隣接公園一体化、「地域の顔」と住民協力**(神戸新聞、98.12.18) 学校側の思いを地元自治連合会が受け取り、関係者が話し合い。地域の公園と校庭の垣根を取り払い「学校公園」へ。休日には地域住民が運動場を自由に使える「ギブ&テイク」。同じ様な工夫は須磨区でも進められている。自治会や市教育委員会・土木局・学校間で「学校管理運営委員会」を来週発足しようと協議中。
- 帰れない復興マンション、失業や貸し渋り、資金確保難しく、業者にも維持費負担**(日経新聞、98.12.8) 震災で倒壊し再建されたマンションへの再入居を断念する住民が増えている。辞退で余った住戸も復興に伴う供給過剰で処分仕切れないのが実状。
- NPO法きょう施行、全国の被災支援経験100団体、「法人格申請」は28%、税制優遇なく「利点少ない」**(毎日新聞、98.12.1) 「特定非営利活動促進法」施行に合わせアンケートを行った所、回答のあった64団体のうち、早い段階で申請する8%、いずれ申請する20%、申請しないは48%。意見としては、「優遇税制」を等の見直しや行政による「資金援助」「情報公開」等を望んでいる。
- 市民活動・財源フォーラム、企業や行政に頼らない市民基金づくり提案、来年4月スタートへ5000万円の助成目標**(朝日新聞、98.12.7) 震災をきっかけに広がったボランティア活動の団体の資金問題を話し合う「市民活動・財源フォーラム」が6日神戸YMCAで開かれ、各団体から60人が参加。市民基金案を被災地NGO協働センター代表村井氏が提案。一般市民から小口の寄付を集める構想で、ボランティアや学識経験者らが11月末に設立準備委員会を結成。NPO法人格をとり、来年4月のスタートを目指している。

●**仮設をグループホームに、改修工事始まる、神戸市西区の高塚台住宅、被災地初の試み**(神戸新聞、98.12.1) 住民が転出した仮設住宅一棟8戸を改修し、痴呆症の被災高齢者のためのグループホームをつくらうというもの。今年8月末で移転先が決まっていない仮設の痴呆症の高齢者は43人。恒久住宅に移転するまでの間、ケアが必要な高齢者を一カ所に集めボランティアが支援しやすいように仮設の構造を変える。工事は市が、運営は「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」。運営費は阪神・淡路コミュニティ基金とソニー生命が援助。今月末から入居開始。

まち・コミ活動報告



共同再建支援 いよいよ1月15日に「出発式」、そして公団との契約！

前号でもお伝えしましたが、1月15日に仏式による「出発式」(実質「地鎮祭」ですが公団との契約前に行うためこういう名称になります…)を行い、20日には公団と権利者として「土地売買」と「住宅譲渡」の契約を行う予定です。現在は公団の積算も終わり、関係各者のご協力により、当初の事業費枠を上回ることなく計画が進んでいます。契約以後は、今度は「管理」の話が大きなテーマとなります。



まちづくり支援 恒例餅つき大会、開催。今年も抜けるような青空。



震災以後、恒例となっている餅つき。今年は集会所が解体撤去されたため、都市計画の現地相談所前で行われました(といっても場所的にはほとんど変わりがないですが…)。抜けるような青空の下、今年も生野郡生野町の方々がお越し下さり、慣れた手つきで水とり・餅つきをお手伝い下さいました。



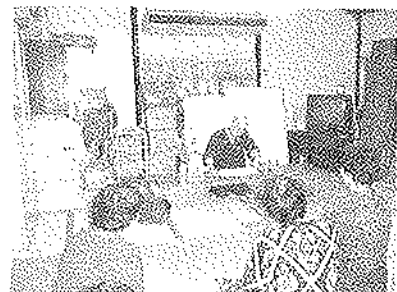
また、佐用郡佐用町からは先月の佐用町訪問の際に出会った中学生達が来訪、一緒に餅つきを楽しみました。



その他 今年も曹洞宗の僧侶が托鉢・法話



知る人ぞ、知りますが、まち・コミは「お坊さん」とご縁が結構あります(立ち上げのきっかけが「慰霊祭」でもありますし…)。九州は天草の地藏院住職・荒木正昭師は震災直後からずっと被災地に関わりつづけ、御蔵・菅原にも頻繁にこられ、



住民の方々に「法話」を説かれたりして下さってます。

今年も22日に御菅を中心に托鉢をされ、またご同行された福岡・円通寺住職 狩野俊猷師により法話もいただきました(わが街の会主催)。なお、来年(99年)も1月17日(日)曹洞宗青年会のお世話で「慰霊祭」を行います(菅原市場駐車場・午前10時)。狩野師には慰霊祭当日も法話をいただく予定です。

ご参加のお誘い

1月13日(水)、「防災シンポジウム'99」と題し、東京都庁第一庁舎5階大会議室で「災害とボランティア」というテーマでシンポジウムが行われます。時間は18時～20時30分。基調講演として外岡英俊氏(朝日新聞東京本社社会部)が話され、パネルディスカッションでは上原泰男氏(連合東京福祉局)・島田京子氏(日産自動車)広報部社会文化室担当部長・大野垣 高範氏(板橋区総務部防災課長)、そしてまち・コミの小野が参加、コーディネーターはいつもまち・コミがお世話になっている浦野正樹先生です。参加費無料です。お問い合わせは東京都総務局災害対策部防災計画課・TEL 03-5388-2453 FAX 03-5388-1260。ぜひご参加を。

まち・コミ 12月号も行く!

13日の餅つき楽しかった♥
私は月刊まち・コミ担当なので、あんまり御蔵の人々と接することがなかったのですが、今回の餅つきで、初対面の私を抵抗なく受け入れてくれる、御蔵というまちのあたたかさを知り、御蔵がますます好きになりました。
(檀美)

12月

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1日 御蔵通 5・6丁目町づくり協議会役員会 | 8日 都市安全研究センター研究報告出席
共同化参加者移転・神戸市との交渉 |
| 2日 ハートフルネット解散パーティ出席
WAVE117 座談会出席 | 12日 餅つき準備 |
| 3日 住市総申請 | 13日 みくら餅つき大会 |
| 4日 「市民がつくる復興計画」策定委員会 | 16日 東京都防災課訪問 |
| 5日 あらばき協働印刷・関根美子氏来所 | 21日 御蔵通 5・6丁目町づくり協議会役員会 |
| 6日 エイドの会パート2出席 | 22日 共同化組合会議 |
| 7日 みくら 5・6・7 我が街の会会議 | 23日 発送作業
ただの勉強会 |

募金・協力 (11/25~12/17)

ありがとうございました! (敬称は略させていただきます。)

●募金●

山田歯科医院 (東京都)
名生和子 (神戸市)
山本順子 (高知県)
㈱アーバン・プランニング研究所 (大阪府)
村岡聖治 (山口県)
北野泰成 (福井県)
服部銚二郎 (東京都)
玉野和志 (東京都)
秋馬正弘 (神戸市)
大橋杏奈 (岐阜県)
㈱森長組神戸支店 (神戸市)
長田郵便局 原田敏秋 (神戸市)

西條正弘 (東京都)
林幹雄 (福岡県)
麻生克郎 (神戸市)
植田修克 (神戸市)
金正義信 (神戸市)
豊根三恵子 (神戸市)
久野善次 (大阪府)
㈱新生商会 小林昭順 (東京都)

●協力●

㈱兵庫商会 (神戸市)
曹洞宗国際ボランティア会 (東京都)
上田諭信 (神戸市)

通信費カンパ・募金のお願い & 定期購読のおすすめ

現在、まち・コミュニケーションでは、活動に必要な資金への募金のお願いをしております。台所事情は楽ではありませんが、活動に当たっては、通信費はもちろん、事務所運営維持費や消耗品費など、支出の避けられないものが多々あります。

今後の被災地のまち復興のための活動へのご支援を、よろしくお願い致します。

【郵便振替口座番号】 00950-3-42788

【口座名称】「まち・コミュニケーション事務局」



また、この通信紙を継続的にお読みになりたい方は表の事務所連絡先までご連絡下さい。

編集後記

★本年も多くの方に本当にお世話になりました。来年はまち・コミにとっても激動の1年になるはず。

来年も何とぞ宜しくお願いいたします。来年の目標は締め切り厳守だ! (…)(小野)

★1月で震災から丸4年経ちます。さて、この経験を来年以降生かしていきたいものです。(浅野)

★出会いと再会と別れ…98年も沢山あった。人に生かされていると実感し、お陰様でまた新年。(吉田)

★今年は、新しい出会いがいっぱいの1年でした。来年もすてきな出会いがありますように…(戸田)